

岡山県職業能力開発審議会議事概要

1 日 時 令和3年10月19日(火) 13時30分～15時

2 場 所 ピュアリティまきび 3階「飛翔」

3 出席者

(1) 委員(敬称略)

石原浩子、伊原直美、坂野純子、高橋徹、武田浩一、難波正義、
文谷元信、黒崎政彦、高田美紀子、宮本誠一、村山茂生、浅沼英樹、
山本繁樹(計13名出席)

(2) 事務局(県)

産業労働部長、労働雇用政策課長、事務局職員

4 議 題

(1) 第11次岡山県職業能力開発計画の策定について

(2) 県立高等技術専門校における在職者訓練の有料化について

5 議事概要

発 言 者	発 言 要 旨
事 務 局	・ 審議会の成立を報告。 【会長選出】 ・ 互選により、武田浩一委員を会長に選出。 (会長が、難波正義委員を会長代理に指名。)
事 務 局	【議題1】 ・ 第11次岡山県職業能力開発計画の策定について資料1により説明。
— 委員意見 —	
委 員	・ 一般には職業訓練校に入るよりも、オンラインも活用し、 訓練機関や企業等を介さずに独力で資格取得等を目指す方が多いと思う。こうした方への直接の支援についてあまり 触れられていないが、どうか。

発 言 者	発 言 要 旨
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・県においては財政面の制約等もあり施設内での訓練が中心で、県の計画素案もそのようになっているが、国の計画や施策には、労働者の主体的なキャリア形成のための教育訓練給付制度等が盛り込まれており、第四次産業革命スキル習得講座認定制度では経済産業省と厚生労働省が連携するなど力を入れていることから、こうした国の支援策の周知等を図ってまいりたい。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・国の支援策は成長分野と位置付けるものや現在人手不足の職種等に関するものが中心であり、例えば女性の非正規労働者が目指すものと必ずしも一致しない。また、オンラインを活用すれば低コストで実現できる可能性があるため、県においても是非研究して対応していただきたい。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・国もeラーニングの活用を進めたり、求職者支援訓練においてはフラワーデザインやネイリストなどの身近な職業の訓練も実施していることから、こうした訓練の状況も把握しながら、引き続き考えてまいりたい。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・労働者が取得した資格の「見える化」を行えば求人先に容易にアピールすることができ、処遇の改善にもつながる。こうした情報のデジタル化も含めて考えてはどうか。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアの見える化は重要であり、国は資格・訓練歴や職務経験など職業能力を証明するジョブ・カードの活用を力を入れており、県の職業訓練校においても作成指導を行っている。 ・また、技能検定も能力の見える化につながり、県から合格証や技能士章を交付するほか、技能士会連合会では携帯に便利な技能士カードを作成している。 ・デジタル化により、こうした制度等の更なる有効活用が図られることから、国のデジタル施策の動向を眺めながら、県としてもどのような取組ができるのか検討してまいりたい。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・技能の向上のため、技能コンテストのような大会を開催していると聞くが、どのようなものか。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・技能検定の合格級に応じて大会が開催されているが、毎年開かれる「技能五輪」においては県選手団を編成し、全国場で様々な分野の技を競い合っている。

発 言 者	発 言 要 旨
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・計画素案では、例えば求職中の女性、離職者、高齢者等が定量的にどれくらいいるか分からない。また、どのような技能を持った求職者が、どのような職業に就くことを希望しているか等が見える化できれば、効果的な施策につなげられる。我が国全体の中で、こうした求職者等を把握できる仕組みが必要だ。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けた技能を国が証明する技能検定制度があり、職種別の合格者数等は分かるが、お話のように、合格者の就業や求職状況等を詳しく把握することはできない。 ・技能検定のデータを効果的に活用できればよいと考えており、労働局に意見として伝えてまいりたい。
会 長	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の工業高校の授業はバラエティに富み、間口も広いと認識しているが、生徒の卒業後の進路として、高等技術専門校はどのように位置付けられているか。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・工業高校の生徒は高校時代に様々な資格を取得し、技能検定に合格している者もあり、将来をしっかりと見据え、技能を役立てる企業への就職や、さらに技術を身に付けるためには職業能力開発大学校へ、学術的に学びたい場合は大学へと進む。高等技術専門校は一部の資格取得のためには選択肢になるが、進路が多くある中で候補になりにくい。 ・卒業生は一定の技術・技能を身に付けており、3年間旋盤を扱ってきた者が、初めて扱う訓練生と同じスタートになるのはもったいないので、今まで学んだ先からスタートできる等の柔軟な受入れができれば、魅力を感じてもらえるのではないか。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・技術・技能を有する卒業生が改めて同様の訓練を受けるのは現実的に難しく、お話のように他の訓練生とは別の課程等を設けるのも選択肢の一つであるが、どのようなニーズがあるのか、高校生の進路状況を踏まえて情報交換しながら検討してまいりたい。 ・工業高校の卒業生よりも、実際には普通科や総合学科の卒業生で、ゼロから1～2年で技術を身に付け現場で活躍できる人材に、と濃縮した形の訓練の実施を想定している。 ・なお、自動車整備士の資格については、高校では3級しか取得できないが、高等技術専門校では2級取得を目指すため、ニーズはあると考えている。 ・高校進学時や卒業時などで様々な選択肢があることが重要であり、お話の点も含めて引き続き考えてまいりたい。

発 言 者	発 言 要 旨
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・社会は日進月歩で経済構造も変化する中、職業訓練がこのままで3年後に通用するのか。産業界も向こう10年では脱炭素をはじめ、更なる変化が予想される。職業教育についても、柔軟性とリニューアルを加えるべきだ。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・計画素案第3部4(5)の「若者の職業能力開発」では、新規学卒者の人材育成について、ものづくり分野を中心に、と記載されている。IT、IoT等の分野の人材育成を入れることはできないのか。50数年前の工業高校と全く変わらない。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・高等技術専門校においても社会やニーズの変化に応じた訓練を一部取り入れているが、組織体制や財源の制約などから施設内訓練でのIT、IoT関連の訓練実施は、なかなか困難である。民間の訓練の受講に国が助成する仕組みもあるので、現実的には、こうした制度の周知等が一つの方法と考える。 ・施設内訓練では、民間では整備が困難な施設・設備を必要とする訓練を行っており、県と民間、国、関係機関で役割分担しながら全体のニーズに対応すべきと考えている。 ・IT、IoTについては、どの職種においても必要になることは間違いなく、高等技術専門校のカリキュラムの中でも、それぞれの分野でITのスキル、リテラシーを身に付けることができるような訓練を行っており、素地を作ることが役割と考えている。 ・また、施設内訓練とは別に委託訓練でWebデザイン、VBAプログラミング等の人材育成にも取り組んでおり、こうした民間訓練機関の活用も含め、しっかり考えてまいりたい。
会 長	<ul style="list-style-type: none"> ・委員からは計画素案の第3部「3 個々の特性とニーズに対応した職業開発の推進」の記述に対して意見があったが、第3部「1 県内産業の発展を支える人材の確保と育成」ではIoTやAIに関する記述があるので、事務局の方で検討をお願いしたい。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・計画素案第3部6(3)「県立高等技術専門校の魅力向上」に「県立高等技術専門校が十分に認知されていない状況も否めません」とあり、対策も記載されているが、中高年を含め、セーフティネットとして広く知られることが大事だと思うので、普及啓発、広報を十分にお願したい。

発 言 者	発 言 要 旨
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高等技術専門校訓練生の就職率は高く、企業ニーズは高いが、入校率が上がらない。アンケート結果をみても十分認知されていない状況なので、色々な取組の中で専門校についてしっかり周知してまいりたい。 ・ 専門校各校では、例えばインパクトのあるデザインの自動車を訓練生自らが訓練の中で考えて作っていく取組を実施したりしている。 ・ こうした取組も含め、オープンスクールのほか、動画配信サイトで校の魅力を訓練生の生の声で発信していくことを予定している。 ・ 関係機関、関係の業界、審議会の委員の方々にも実態を認知いただき、機会を捉えて専門校の紹介をしてほしい。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門校で訓練に使用する設備が古いということ聞いたが、実際に訓練がやりにくいことはないか。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機器や材料は必ずしも十分ではないが、工夫をしつつ、機器の更新や、必要に応じて業界・企業の協力もいただきながら、対応してまいりたい。予算の確保にも努めたい。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な設備をすべて専門校に入れるのは不可能なので、職業大学校とか設備があるところと連携をとっていくことが、最も安価で効果も高いと考える。こうした関係機関等をうまく活用してほしい。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今の工業高校は、50年前と全く変わらない。ベトナムの専門学校で旋盤や溶接を教えているが、日本と変わらず、むしろベトナムの方が進んでいるかもしれない。 ・ カリキュラムも現行のものがベースになると思うが、学校単位で高度化してほしい、ITなどを少しでも組み込んでいけば、工業高校においても、ものづくり中心から脱皮して今の社会にあった教育ができるのではないか。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工業高校のカリキュラムについては、文科省の学習指導要領に従って実施しているものだが、実習系については自由度が高いので、地域の産業や生徒の資質に応じて組み替えができています。 ・ 基礎になる旋盤の実習は50年前と変わらない一方で、パソコン制御、機械制御等のIT関係の授業も実習・座学とも入っており、また、プログラミングを扱う情報系の授業もある。時代の流れを見ながら行っている。

発 言 者	発 言 要 旨
会 長	<ul style="list-style-type: none"> ・工業高校の卒業生は現場でものづくりを支えることが期待されているが、これからの社会を牽引していく人材となるよう、課題解決型学習が全国的に行われている。 ・思考力、クリエイティブ力を高校時代から身に付けることで、就職後、自ら改善に取り組んだり、面白いことにつながる発想ができるようになる。 ・また、自治体や企業と連携して地域の課題解決を提案していく「地域学」の授業の中では、実際にものを作ったり、プレゼンしたりしている。 ・先を見据えた取組を行い、目に見える形で出していくべきと感じている。 <ul style="list-style-type: none"> ・よく産・官・学連携というが、岡山県は水島工業地帯を造り、工業先進県と言われている中で工業技術の振興に力を入れて来ており、県の施策もその流れの一環で行われていると思う。オンラインとかデジタル化とか、ツールも増えており、デジタルが発展していく中で学ばなければならない部分も多い。 ・岡山県民は宣伝ベタと言われるが、この審議会のような場を通じて情報交換を行い、産業教育のあり方、高等技術専門校のあり方を議論していけば有意義と感じている。 ・この場に出た意見を十分検討していただいて、計画の案を取りまとめていただきたい。 <p style="text-align: right;">(異議なし)</p>
事 務 局	<p>【議題2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立高等技術専門校における在職者訓練の有料化について、資料2により説明。
—委員意見—	(意見なし)
会 長	<p>(採決)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議題2に対して「原案は適当である」と答申することについて、採決の結果、全会一致で承認された。

以上